

2016年10月30-31日 晩秋山行 下ノ廊下

参加メンバー：A, F, K, O, W

吉村昭の小説「高熱隧道」の世界である下ノ廊下へ行ってきました。10/29(土)に、扇沢発16:00のトロリーバスに飛び乗り、みぞれが舞う黒部ダムへ。ロッジくろよんに前泊しました。

1日目：

早朝4:30頃にロッジくろよんを出発。少し霜が降りてしまっている箇所もありましたが、路面は概ね良好。足元に注意しながら先を進めました。山々は紅葉と昨夜の冷え込みで霧氷となっており、非常に綺麗でした。また何とも言えない絶景に、写真を取りたいがため足が幾度も止まり、そういう意味で時間がかかるルートだと言う事を認識できました。また、すれ違いが難しく、先行者が遅い時や渋滞した時にはストレスが溜まるルートになるため、前泊し早朝出発した甲斐はありました。白竜峡あたりから危険箇所が連続します。整備がされているものの、多くの登山者が通過した事で崩壊しかけている丸太橋等ありましたが、注意を払いながら問題無く通過。仙人ダムまで続く旧日電歩道はほとんど平坦で、まさにダムを作るための作業路という感じでした。仙人ダムのトンネルはまさに高熱隧道の世界。蒸し暑く同行者のメガネが曇っていました。

いつもと少し違う疲労を感じながらも、阿曾原温泉小屋に着いたのは14:30。露天風呂でゆったりと汗を流すことが出来ました。阿曾原温泉小屋は本日まで宿泊を受付し、翌日から小屋の解体作業とのこと。雪が降り通過出来なくなる前に、滑り込めました。

天候から急遽日程を変更しての山行となったため、小屋の予約を変更出来ず久しぶりのテント泊となったメンバーもおり、4-5人用のエスパースに5人というギュウギュウな状態で就寝となりました。

2日目：

前日早朝の霜を警戒し、予定より30分遅らせて5:00頃出発。標高が低い事もあり、心配していた路面の霜はありませんでした。阿曾原温泉小屋からの登りを登り切ると、水平歩道へ上がります。大太鼓あたりで再び危険箇所がありましたが、特に問題なく通過。途中、志合谷のトンネルでは非常に水が浸水していました。10:00前に樺平へ着く事が出来、観光客の渋滞に巻き込まれずにトロッコ列車に乗る事が出来ました。宇奈月温泉駅には回送サービスで頼んでおいた車が待っており、海沿いで海産物を食べた後帰路へつきました。非常に充実した山行となりました。

[コースタイム]

1 日目：ロッジくろよん(4:25 発)–内蔵助出会(6 : 10)–白竜峡(9:40)–十字峡(10:50)–作廊谷合流点(11:45、大休止)–仙人ダム(13:20)–阿曾原温泉小屋(14:30 着)

2 日目：阿曾原温泉小屋(4:55 発)–大太鼓(7:45)–志合谷(8:00)–樺平(9:55 着)

旧日電歩道①

旧日電歩道②



十字峡

阿曾原温泉



水平歩道

樺平

